



宮司プレス 七十三号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十四年六月 二日

◇宮司の柴田です。「宮司プレス」も、先

月号で丸六年、今月号から七年目に入ります。年二回発行している社報(しゃほう)である

「産土(うぶすな)」に、「宮司プレス総集編」というコラムがありまして、第六十八号(一

月号)より本号(六月号)までを一挙掲載する事となっています。その原稿の締め切り

が、押し迫っています関係で、月末の発行が茶飯事になっていましたが、ようやく目標の

「エキस्प्रेस(特急)」になった次第であります。ホームページでも、ご覧になれますが、社報「産土」でも、宮司プレスが閲覧

(えつらん)できるといふわけです。

◇いよいよ本格的な夏を控えて、「節電」が、我々の日常生活での大切な約束事、道しるべ、モラルになりますよね。それは、昨年三月十一日に発生した東日本大震災のあまり

にも甚大(じんだい)な被害が、日本列島の基礎を大きく変えてしまった事が、大きな要因であります。東日本大震災の地震の規模

は、日本の観測史上最大、世界的にも歴代四位という超弩級(ちようどきゆ)、一千年に

一回発生するかどうかという非常に稀(まれ)な巨大地震でした。この震災は、我が国にとつて戦後最大の試練となっています。

地球科学的に見ますと、戦後の復興期というのは、地震が少なかった時期だったそうです。日本の復興期と高度経済成長期に巨大地震がなかったのは、僥倖(ぎようこう)、思いもかけない幸運だったのですね。その地震の少ない恵まれた時代が終わったのが、平成六年の阪神淡路大震災といわれています。

◇被害が甚大になったのは、人類が物資を溜(た)め込(こ)むようになった事が原因で、溜め込んだものが大きいほど、自然災害で失うものも大きくなるのですね。これを、経済用語のストックを引用して「ストック社会」と呼ぶそうです。地球に生命が生まれて三十八億年、知的生物(ちてきせいぶつ)の最高峰にたつ人間が、ストック社会を始め

たのは、わずか一万年前からだそうです。それ以前は、日本では、縄文時代の狩猟採取(しゆりようさいしゆ)をしていた時期で、経済用語でいえば「フロー社会」です。一

万年前に、人類が農業と牧畜を發明し、余つた農作物を貯え、富の集積が始まり、その富を独占する権力者が出現し、やがては、国家が誕生するのです。その先が、産業革命、さらに、石炭から石油のモーターゼーション、いわゆる車社会の到来になります。そして、

文明の發達は、加速度を増し、核の平和利用による原子力発電と進化をとげるのです。石油や石炭の化石燃料は、いずれも地球上の生物がストックしてきたエネルギー資源です。石油は、一千万年、ウランは一億年かけて形成された資源であります。途方もない時間をかけて作つた資源を人類は、ここ二百年ほどで燃やし尽くそうとしています。

ストック社会も、行きづまりです。

◇京都大学の鎌田浩毅(かまた ひろき)教授は、「ストック型文明から脱却し、フロー型文明へ軟着陸する事が、日本の次の目標だ」と述べられています。実は、鎖国をして

いた江戸時代、低エネルギー消費の自給自足で、「フロー社会」を実現していました。衣食住はすべて国産、人体から出たものを堆肥(たいひ)にして資源を循環させ、低エネルギー社会でありながら、二百五十年もの平和な時代を築きました。「パクス エドガーナ」、「江戸時代の太平(たいへい)」と言

われる所以(ゆえん)です。

◇富小路禎子(とみのこうじよしこ)という歌人(かじん)は、「服あふれ 靴(くつ)あふれ 籠(かご)にパンあふれ 足るを知らざる 国と成り果つ」と、ストック型文明を嘆かれています。徒然草(つれづれぐさ)にも、衣食住と葉が、生活の基本条件で、一つでも欠けていけば、「貧しい」、すべて足りていけば「富」だと説き、その四つのを望むのは、「贅沢(ぜいたく)と論(さと)しています。まさに、「フロー社会」の心得が、述べられていますね。 「足るを知る」謙虚さが必要なのです。 さらに、鎌田教授は、大自然に対する「畏敬(いけい)の念(ねん)」を取り戻し、共存する知恵を絞らなければならぬと、仰(おっしゃ)っています。

◇鎌田教授の提唱される「フロー社会」へのシフトに不可欠である感謝の心、富小路禎子さんと徒然草の、「足るを知る」謙虚な心を忘れずに、戦後最大の試練を乗り越えてまいりたいものです。皆様方のご自愛をお祈り申し上げます。

- ◇五月の祭典行事報告
- ▼月次祭 *五月一日、十五日
- ▼衣更え *五月五日(立夏)
- ▼塩釜祭 *五月五日
- ▼福浦金刀比羅宮例祭 *五月十九日〜二十日
- ▼朝粥会 *五月二十一日

▼海上自衛隊ミサイル艇、安全祈願祭参拝

◇六月の祭典行事予定(報告も含む)

- ▼月次祭 *六月一日、十五日
- ▼西山小校外学習参拝 *六月一日



- ▼恵比寿神社例祭 *六月十日
- ▼朝粥会 *六月二十一日
- ▼大祓式 *六月三十日
- ◇六月の宮司の行事会議等活動予定(報告も含む)

- ▼八幡宮関係団体
- ◇奉賛会理事総会 *六月二日
- ◇早起会総会 *六月三日
- ◇維蘇志会草刈奉仕例会 *六月六日
- ◇氏子青年会中国地区研修会
(岩国市、維蘇志会有志参加)
*六月二十三日〜二十四日
- ◇山口県敬神婦人連合会総会
(神社庁、敬神婦人会有志参加) *六月二十六日
- ◇行事委員会茅(ち)の輪(わ)奉製(ほ
うせい)作業 *六月三十日

- ▼山口県神社庁、同下関支部関係
- ◇神職大会、神道史研究会役員会、支部三役会 *六月四日

- ◇中国地区女子神職研修会(神社庁)
*六月七日

- ◇支部宮司会 *六月八日
- ◇支部幹事会 *六月十一日
- ◇北九州神職会との親睦行事 *六月十三日
- ◇神職養成講習会講師打合、協議員会 *六月十八日
- ◇祭式研修会(神社庁)
*六月二十七日〜二十八日

- ▼西ローターリークラブ
- ◇例会 *六月六日、十三日、二十日、二十七日
- ◇メーキャップ *六月一日、十九日、二十五日
*六月二十八日、二十九日

- ▼講演活動
- ◇山口県神社庁豊浦神社総代会
*演題「三感四恩」 *六月八日
- ▼人権擁護委員活動
*人権擁護委員の日啓発活動 *六月一日



- *下関人権擁護委員協議会研修
*六月十九日
- ▼その他
- ◇迫町自治会クリーン作戦 *六月十日